

大阪産業大学 フェロー 中野 雅弘（委員長）

1. 目 的

大阪市内では、大川における水上バスや道頓堀川と東横堀川をつなぐ新クルーズ等の水上交通が営業されており、舟運は屋形船や桜の時期等の臨時便等も合わせると水都・大阪の楽しみ方の一つとして定着しつつあるところである。また、水辺空間を活用した民間事業として、河川や堀に面した立地条件を活かした商業利用の試みが行われている。今後とも水都再生を目指し、新たな賑わい空間としての水辺空間の利用が進められて行くことが予想され、水辺空間と沿川を一体とした社会基盤として再整備していくことが喫緊の課題となっている。

本共同研究は、東横堀川を対象として、①水辺空間の再生、②安全安心の創出、③にぎわい空間の創出といった三つのテーマについて、実現可能性のある基礎的な調査研究を行うことを目的としている。その成果に基づき、社会実験等を通じて実現に向けた提言を目指している。

2. 研究方針

本研究では、主な研究課題として下記に示すような幅広い事項について話題提供や現地視察等を行った。そのため、構成メンバーは、表1に示すように土木（社会基盤）分野を始め、建築、環境、情報通信、材料、機械、化学等の他分野にも広げ、多様な専門分野から都市再生についてハード・ソフト両面を含めて検討を実施している。

- ① 水辺の再生：景観整備、張り出しデッキやライトアップ等の整備、水質浄化等
- ② 安全安心の創出：災害時等の水辺資源の活用、都心部の温暖化対策（風の道）等
- ③ にぎわい空間の創出：歴史文化、個性的な店舗等の活用と連携、商業活動の活性化等

表1. 共同研究グループの構成メンバー

中野雅弘	大阪産業大学工学部土木工学科(委員長)	川上宏一郎	西日本電信電話(株)法人営業本部
森山正和	摂南大学理工学部住環境デザイン学科(副委員長)	木村尚志	エヌ・ティ・ティ・インフラネット(株)関西支店企画部
堂垣正博	関西大学環境都市工学部都市システム工学科	今中利信	(株)ミライト・テクノロジーズ
片桐 信	摂南大学理工学部都市環境工学科	杉山和久	(株)大林組大阪本店土木事業部営業部
辻内元博	大阪府都市整備部河川室河川整備課	那須 守	清水建設(株)技術研究所地球環境技術センター
井上 亮	大阪市計画調整局	東 俊司	積水化学工業(株)環境・ライフラインカンパニー
中野亮一	大阪商工会議所地域振興部	中平明憲	福岡都市技術(株)
高野みのり	水都大阪推進委員会事務局	大矢 聡	(株)建設技術研究所水システム部(事務局)
坂下泰幸	阪神高速道路株式会社	粟生啓之	(株)建設技術研究所道路交通部・計画室(事務局)
石川智巳	(財)電力中央研究所地球工学研究所	久保田健蔵	積水化学工業(株)環境・ライフラインカンパニー(事務局)
濱田耕一	大阪ガス(株)導管事業部中央保安司令部	杉本容子	(株)ワイキューブ・ライフ(オプザーバー)
得津明弘	ジェー・アル西日本コンサルタンツ(株)IT・環境事業部		

3. 活動成果

本共同研究グループでは 5 回の研究会を開催し、上記の事項に関連する情報交換を行ってきた。また、関連する技術に関して、その都度資料収集を行った。主要な話題と概要を以下に記す。

① 水都大阪推進の取組について、話題提供者：中谷充宏(大阪市計画調整局開発調整部)

水都大阪は、豊臣秀吉による城下町の建設や江戸時代の新田開発等から始まり、近世から近代にかけて形成されてきた。2011 年、水都大阪推進委員会によって「水と光のまちづくり構想」が策定された。その後、大阪府市都市魅力戦略会議によって、「重点エリアのマネジメント戦略」が検討された。

② 水都大阪 新たな展開へ、話題提供者：高野みのり

水の都大阪再生構想(2003 年)では、大阪府中心のハード整備を、花と緑・光と水のまちづくり提言(2003 年)では、ソフト整備を官民で進めた。次のステップは、大阪の都市力の向上を目標として、オール大阪で水都大阪、水と光のまちづくり構想(2011 年)を策定し、①シビックプライド向上、②滞在型観光集客、③経済活性化による水都大阪ブランドの確立を目指している。

③ 東横堀川界隈の活性化構想、話題提供者：中野亮一

道頓堀川の賑わいを東横堀川でも得られるように e-よこ会を立ち上げた。本町橋近くに暫定小型船舶着場を整備したが、拠点化までには至っていない状況である。また、民間による水辺の利活用の仕組みがなく、来年は本町橋が 100 年周年でもあり、賑わい拠点づくりをコンセプトとした「本町橋 BASE」を提案した。

④ 水環境と水場空間に対する創造提案について、話題提供者：東 俊司

河川水質浄化では、膜濾過の利用を提案した。この膜の穴は、 $0.01\mu\text{m}$ なのでインフルエンザウイルス $0.08\mu\text{m}$ もキャッチでき、河川親水利用での可能性が示唆された。デッキ材等で使用する合成木材やフライアッシュを使用したりサイクル材の紹介も行った。

⑤ 防災水利としての水源活用、話題提供者：片桐 信

同時火災発生時に、ライフラインが機能しないケースを想定し、一般市民が初期消火できる消火施設を検討している。東横堀川を水源とした消火計画では、谷町 6 丁目界隈(木造家屋密集地域)を想定した。中規模火災で、市民消防団による消火を想定している。

⑥ 東横堀川周辺における阪神高速道路のあり方について、話題提供者：坂下泰幸

東横堀川の阪神高速は、10 万台/日の交通量があり、阪神高速道路で一番交通量が多い区間である。環状線は、施工年度は古いが、損傷は少ない方である。東横堀川でライトアップを実施しているが、今後、護岸、公園、橋などの景観整備との統一性を保つことが課題となろう。

⑦ 都市生活の質と緑地の再生、話題提供者：那須 守

世田谷区、杉並区、江戸川区、台東区において、物理的な環境、効果、QOL(Quality of Life)の項目を対象に、緑の貢献度を定量的に分析した。緑の貢献度は、QOL に対して 20%程度の寄与率であった。緑に運動・遊び・会話等を加えた方が、健康効果により一層寄与するため、都市計画では緑地のみの整備ではなく、会話等が出来るような整備を合わせて実施することで、効果が高まると考えられる。

⑧ ヒートアイランド対策を考えた都市づくり～東横堀川における「風の道」計画～、話題提供者：森山 正和

「風の道」計画は、風が通るルートを計画し、空気の淀みを防止し、熱による気温上昇を抑えることや、人々のための快適なオープンスペースを創出することにある。東横堀川で風通しを良くするためには、河川西側の建物に開口部を設ける必要性が示唆された。

4. まとめ

水辺空間を活かした都市大阪再生に関連する多様な話題について、意見交換を行ってきた。これらの意見交換に基づき、今後の研究テーマ、対象メンバー、スケジュール等を検討し、合意を得た段階にある。今後は大阪府市での検討の進捗等を見据えて、具体的な取り組みを実施していきたいと考える。